

青少年育成 かすみがうら市民会議

広報誌

vol. 10

青少年心身健全育成事業「ジュニア和太鼓教室」



ふれあい生涯学習フェア2021の収録に参加



● 会長あいさつ ●

青少年育成かすみがうら市民会議 会長 酒井賢治



市民の皆様方には日頃から青少年育成かすみがうら市民会議の活動にご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、感染防止のため様々な活動におきまして制限や中止などを余儀なくされました。本会におきまして、最大の目的でもある「次世代を担う青少年の健全育成」を十分に達成するために様々な活動を展開する予定でしたが、7月に開催を予定していました「青少年育成を考えるつどい」はじめ、ウィークエンド・コミュニケーション・スクールなどの事業は中止もしくは縮小しての開催となりました。

そのような中ではありますが、皆様にご賛同いただきました会費は、青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室）などの本会の主催する事業をはじめ、青少年相談員連絡協議会、市高校生会などへの補助金交付、新成人への記念品配付、広報事業などへ大切に活用させていただいております。

私たち青少年育成かすみがうら市民会議としまして、一日も早く新型コロナウイルス感染拡大が終息を迎え、平穏な社会に戻り、市民総ぐるみで青少年の健全育成に取り組めるよう願っております。

今後とも市民の皆様方には「地域の親」「社会の目」として子どもたちを温かく見守っていただき、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



❖青少年育成かすみがうら市民会議とは

次世代を担う青少年が、社会における自らの役割と責任を自覚し、豊かな情操と広い視野を持った大人へと成長することは、市民すべての願いです。その願いの実現を目指し、地域環境整備や青少年への働きかけを行うことは、我々大人の責務であるといえます。

こうした責務を果たすべく、強力な市民ぐるみの運動を展開し、次世代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に、「青少年育成かすみがうら市民会議（以下、市民会議）」を結成しています。

❖市民会議の事業とは

市民会議では、青少年の健全育成運動の総合的企画や関係機関・団体等との連絡調整をはじめ、青少年の健全育成を推進するために各種事業の実施や関係団体の支援、青少年育成に対する関心と理解を深めるための広報・啓発活動を実施しています。

❖市民会議の活動費

市民会議は、その活動にご賛同いただいた皆様からの会費によって運営されています。

会費は、青少年健全育成を目的とした事業の展開や学校・関係団体への支援に対する貴重な財源として活用させていただいております。

❖会員募集について

本会では、毎年会員を募集しております。本会にご賛同してくださる方には、会費を納入いただいております。**【会費】** 一般会員：年額 200 円、賛助会員：年額 1 口以上（1 口 1,000 円）
会費の納入につきましては、毎年 6 月頃に区長・自治会長・常会長・班長の皆様を通してお願いしております。

❖今年度(令和3年度)の事業

青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室）
ウィークエンド・コミュニティー・スクール（KWCS）事業
青少年健全育成に関する広報活動
新成人への記念品配付及び成人式典会場準備費等への助成
青少年相談員連絡協議会の巡回等の活動への助成
中学校立志行事への助成
高校生会への助成
青少年育成を考えるつどい【中止】
親子つり大会・リーダー研修会など市子連事業への協賛【事業中止】

..... ～推進している運動をご紹介します～

「あいさつ・声かけ運動」

まず、大人から子どもにあいさつ・声かけを始めてみましょう！

「あいさつ・声かけ運動」は、家庭、学校、地域で、大人と子ども・大人同士・子ども同士のコミュニケーションを広げる運動です。

青少年が、将来への夢や希望をもっていきいきと成長していくためには、地域社会の大人たちが、学校や家庭と連携を図りながら支援していく必要があります。

「親が変われば、子どもも変わる運動」

いつの時代にも、次代を担う青少年を健全に育てていくことは親や大人の使命です。

私たち親や大人は、これらのことを自覚して自らの生き方を見直し、姿勢を正していかなければなりません。

青少年の人格形成には、日常生活における親の子どもへの関わりが大きく影響します。親が、子どもたちのよい手本となるよう親自身が変わっていく必要があるため、大人のマナーアップ運動としても実施しています。



会員加入にご協力をお願いします。

令和3年度

「少年の主張茨城県大会 主張文を募集しました」

公益社団法人茨城県青少年育成協会及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の主催による「令和3年度少年の主張文募集」に、市内3中学校から推薦のあった6名の主張文を提出いたしました。

ご紹介する6名の方々には、少年の主張かすみがつら市大会で発表してもらう予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の防止の観点から中止となりました。

学校名	名前
霞ヶ浦中学校	佐藤 聡太
霞ヶ浦中学校	市村 彩音
千代田中学校	成田 麗音
千代田中学校	藤崎みのり
下稻吉中学校	豊崎 梨乃
下稻吉中学校	宮本 果歩

(敬称略)

異なる価値観や 考え方を受け入れて



霞ヶ浦中学校3年
佐藤 聡太

あなたは、将来生きる上で大切なことは何かと聞かれたら、どのようなことを考えますか。環境を大切にすることですか？仲間を大切にすることですか？考えたことは人それぞれだと思います。そこで、この質問に対する私の考えを、無数にある考えの一つとして挙げようと思います。それは、異なる価値観や考え方を受け入れる心を持つことです。

世界には、七十八億人もの人々がいます。その一人一人が異なる価値観や考え方を持っていて、度々衝突が起きます。その具体例として、近年問題になっている事を挙げようと思います。

一つ目は、イスラエルとパレスチナとの間で起きている紛争です。私はニュースでこの紛争で何百人もの死傷者が出ていることを知り胸が痛くなりました。この紛争が起きた原因として、宗教上での考え方の違いが挙げられています。イスラム教の人もユダヤ教の人も、どちらの考えも間違っているとは思いません。だからこそ、お互いに非難し合い、無関係な人々を巻き込んで争いすることは絶対にしてはいけないことだと思います。

二つ目は、黒人差別やアジア系の人への暴力行為や性的思考の批判などのヘイトクライムです。去年、白人警察

官に拘束された黒人男性が死亡するという衝撃的な事件が起きました。これには、みなさんも驚いたのではないですか。これは、白人による有色人への差別や偏見によって起きました。また、今年では、アジア系の人々が突然暴力を受ける事件が起きました。これは、全世界がかかっている共通の課題であると言われています。ですが世界規模で考えようとしても、どうしたらいいのかわからないのではないのでしょうか。

そこで私は、募金や、いじめをしないなどの小さなことに取り組むことがいいと考えました。これなら、みなさんも進んで取り組めるのではないのでしょうか。また、この小さな取り組みを、世界中の人々一人一人が取り組むことで、少しずつ大きな取り組みに発展し平和への大きな一歩になるはずです。具体例では、世界規模の難しい内容になってしまいましたが、これも、先程述べた一人一人の小さな取り組みで解決できると思います。そして、この小さな取り組みをする上で、異なる価値観や考え方を受け入れることができる心を持たなくてはならないのです。

最後に、近年重視されるようになってきたSDGsについても同じことが言えると私は思います。そもそも、みなさんはSDGsという言葉を知っていますか。これは、世界全体で取り組まなければならない課題を示した

ものです。これは、世界規模で考えるのではなく、身近なことから取り組むという点で共通しています。また、この課題の中に、平和や平等な社会をつくるという内容の課題があります。つまり、私が例として挙げた取り組みを行うことは、世界の課題の解決につながるということです。みなさんの考えたことも、きっとこのようなことにつながっていくのではないのでしょうか。みなさんも探してみてください。どこかに平和につながる小さなことが見つかるはずです。この作文が、みなさんが取り組むときの助けになればいいなと私は思います。

誹謗中傷のない社会



霞ヶ浦中学校3年
市村 彩音

みなさんは、顔も名前も知らない人に、傷つけられた事はありませんか。最近、ニュースを見ていると、よく「誹謗中傷」という言葉を耳にします。「誹謗中傷」による被害が増加した今も、SNSを利用していると、よく目にします。「誹謗中傷」それが、どんなに怖いものなのか、ちょうど一年前、私

は知る事になったのです。

ある日、スマホでこんな記事を目にしました。「原因は誹謗中傷か。」内容は、ある方がSNSの誹謗中傷が原因で亡くなってしまった、というものでした。私は、すぐにその方について調べてみました。すると、その方の死を悼む多くの言葉の中に、「お前が死んだお陰でみんな幸せ」や「お前みたいな奴は、地獄に落ちろ」といった、まるで刃物のような心ない言葉が混ざっていました。私は、これを見て、言葉を失いました。亡くなった原因が「誹謗中傷」つまり、自分が軽い気持ちで発した言葉が、人を死に追い込んだかも知れないのに、亡くなった後にも、そんな言葉を書き込む事ができるのか、と恐怖を感じました。この日、私は「誹謗中傷」の怖さを心に刻む事となりました。

それから、ちょうど一年程たった今、あんな事件があったのを、まるで誰も覚えていないかのように、SNS上には心無い言葉があふれています。私も、この一年間、あの事件よりも「誹謗中傷」を身近に感じる事が多くありました。それは、私が応援している芸能人の方についての書き込みを見た時です。

いつものように、SNSで動画を見ていました。その動画についてのコメントで、「このグループ全員嫌いだから早く死ぬ」というものがありました。私は怒りや悲しみよりも「なんで？」という思いになりました。どうしてわざわざ、時間を使ってまで、人を傷つけるような発言をするのだろう、と。

もし仮に、誰かがこのコメントをき

かけに自殺をしてしまったとしても、きつと、これを書いた人は何も無かったかのように明日を生きているんです。それが私には、不思議でたまりませんでした。なぜ、努力して、人に笑顔を、幸せをくれる方々が辛く苦しんで、下手したら自殺するくらいまで追い込まれるしかないのか。どうして、人を傷つけて、苦しめたような人が、全部忘れて普通に生きていくのか。これはきつと、これから先、解決する事のない問題かもしれません。この世界、誰もがみんな同じ考えを持っている訳では無いため「誹謗中傷」が生きがいであり、楽しい事だと考える人もきつと、いると思います。ですが、それとその人の個性だと言って認める事は間違っています。「誹謗中傷」はどんな形でも、大きさでも、間違っている事だということに変わりないのです。軽い気持ちでも、一言だけだとしても、自分だけじゃなかったとしても、その言葉が誰かを傷つけ、苦しめる事になるかもしれない。そして、そのちょっとした一言が集まり、広がれば、もうちょっとした一言では無くなるのです。人はみな、影響を受け、多数派に入ろうとします。だからこそ「誹謗中傷」をしない人が多数派になっていけば、必ず減っていくと思います。あなたの書き込みもしている言葉、それが本当に相手を傷つける事のない「誹謗中傷」ではないか、もう一度確認してみてください。その行動が、きつと「誹謗中傷の無い社会」への一歩になると私は考えます。

私が伝えたいこと



千代田中学校3年
成田 麗音

「新型コロナウイルス、国内初の感染者が確認されました。」

私はこのニュースを聞いた時、「そうなんだ。でも、日本で流行ってもすぐ終わるんじゃないかな。」と他人事のように思っていました。しかし、このウイルスは私たちの暮らしを一変させました。

日本全国に広がり、日に日に増えていく感染者と死亡者。どこを歩いてもマスクをつけている人ばかり。学校の給食では友達と話して食べることが出来なくなり、私がとても楽しみにしていた東京の校外学習が無くなってしまいました。新型コロナウイルスで私の楽しみが全て奪われ、当たり前が当たり前ではなくなり、「普通の生活」がどれほど幸せなことなのかを教えてくださいました。そこで私はこのコロナ禍で伝えたいことが二つあります。

一つ目は、毎日コロナウイルスと闘って、命がけで必死に働いてくれている医療従事者に感謝をするということです。医療従事者の方々は残業や夜勤があったり、とても忙しい日々が続

いていると思います。私は、「家族にうつさないために家族と離れて暮らしている医療従事者がいる。」ということとを聞いたことがあります。仕事で体力的にも精神的にも辛い中、一番の癒しとなるはずの家族と離れて生活しなければならぬ日々はとても辛いことだと思います。しかしそんな中、旅行をしたり、県外に遊びに行ったりする人がたくさんいます。緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出や移動の自粛を要請されています。「自分は感染しない。」「感染しても重症化しないから大丈夫。」と思わず、誰にでも感染し、コロナウイルスが変異して若い人も重症化するようになったので、自分の都合で遊びに行ったり旅行をしたりするのは医療従事者や家族、周りの人のためにも控えてほしいと思います。

二つ目は、新型コロナウイルス感染者への差別、学校やネットでのいじめ、誹謗中傷による自殺を無くすことです。新型コロナウイルスは感染しないように気をつけていても誰が、いつどこで感染するかわからない感染症です。しかし今、コロナ差別や新型コロナウイルス感染による自殺者が増加していることが問題になっています。

感染者の家に投石・落書き・生卵を投げつけるなどのいじめ、SNSでの心ない書き込みや保育園の利用を拒否するなどの偏見や差別、新型コロナウイルス感染の悩み・誹謗中傷による自殺があります。しかし、人間には「全ての人が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」(人権)があります。いじめや差別は人の心を

深く傷つけ、精神的に追い込み、自殺をさせてしまう時があります。コロナ禍で自殺をする人が急増してしまっているのに、いじめや差別、ネットなどでの誹謗中傷を無くすことができた方がいいなと思います。

一人一人が不要不急の移動や外出を控え、新型コロナウイルスによるいじめや差別、誹謗中傷などを無くし、新型コロナウイルスを終息させ、当たり前の日常が戻ることを私は願っています。

「運命の一冊」



千代田中学校3年
藤崎 みのり

「趣味は何ですか。」とたずねられたら、皆さんは何と答えますか。私は迷わず「読書」と答えます。

私は本が大好きです。両親が本好きなこともあり、小さい頃から本に囲まれて過ごしていました。最初の頃は、絵本を母や祖母、伯母などに読み聞かせてもらい、その絵を見て楽しんでいました。兄の影響も受けて早い段階で平仮名が読めるようになり、一人

で絵本を読むことが多くなりました。家にある絵本を読み尽くしてしまう

と、家族は私達を図書館に連れて行ってくれました。大きな本棚に何百冊も、ずらりと並べられている本。先程述べたように、私の家も本は多い方ですが、その数も比べものにならないような量に圧倒され、感動したことを覚えています。その日から、「毎週日曜日は図書館に行つて本を借りる日」になりました。日曜日、家族で大きなバスケットを持って図書館に行きます。そして、それぞれが気になった本を選んでゆくのです。時には三十冊程になる時もあります。それを、一週間かけてじっくり読むことが、私にとって一番の、幸せな時間となりました。そして、私の成長と共に、絵本から児童書、そして小説へと本の種類も変化しました。

「本は心を豊かにする」という言葉をよく聞きます。まさしくその通りだと、近頃よく思います。なぜこんなに本に惹かれるのか、考えてみました。答えはすぐに見つけることができました。本には沢山の「人生」が詰まっているからなのではないでしょうか。私は、生まれてから死ぬまで、ずっと「私」のままです。他の誰かになることはできないし、相手の考えていることは、その人にしか分かりません。しかし、本にはその登場人物の歩いた人生が、心情が、鮮やかに描かれています。主人公と自分を重ねて、ハラハラドキドキする冒険に出掛けることも出来るし、百年前にタイムスリップすることも出来ます。そんな、大きな世界が無限に広がっているということが、本の魅力なのです。

日常生活の中でも、本を沢山読んで

いて良かったな、と思うことが度々あります。

まず一つ目に、知らない言葉が減ったことが挙げられます。本を読んでいると、途中で知らない単語が出てくることがあります。それを辞書で調べることで、沢山の言葉を覚えることが出来ました。「物知りだね」とよく褒めてもらえるのも、本のおかげかもしれません。

また、私は本を通して、友達との会話が增えました。相手に自分の好きな作家を知ってもらったり、逆に教えてもらったりするのは、とても楽しいし、本を読むことで得た想像力があれば、人に優しく接することもできるのです。

しかし、こんなに素晴らしい魅力を持つ本を、嫌いだ、苦手だ、と言う人達がいいます。それに近頃、本を読む人や、図書館を利用する人が減っているそうです。

その理由を聞いてみると、「ゲームの方が面白い」とか、「面倒臭い」などの答えが返って来ます。私はこの話を聞いて、とても悲しく感じました。本の楽しさに気付いていないなんて、もったいないと思うからです。

本棚と本棚の間を歩いて、沢山の背表紙を見つめ、面白そうな本を見つけると、宝探しのようなワクワク感を、一頁目を開く時の胸の高鳴りを、読み終わった時の達成感を、皆さんにも味わってもらいたいです。

「運命の出会い」があるのは、人間だけではありません。今、私の本棚には推理小説がずらりと並べられています。

す。小学五年生の頃「運命の一冊」に出会い、それ以来ミステリーが大好きになったからです。

皆さんも、気になる本があったら、遠慮せず手に取ってみてください。もしかししたらその一冊が、あなたの「運命の一冊」かもしれません。

命の重さ



下稲吉中学校3年
豊崎 梨乃

皆さんは動物を飼ったことがありますか。動物は人にいやしを与えてくれます。ですが最近動物を捨てる人が増えているという悲しいニュースをよく目にします。

なぜ飼った動物を捨てる人がいるのでしょうか。まず、動物を飼うということは、当然その動物のために時間を割かなければなりません。餌や水を適切に与え、快適な生活空間の維持、犬の場合は散歩、種類によってはブラッシングなどの手入れをしなくてはなりません。それに動物は人間より寿命が短いので、人より早く老いてしまします。動物が老いてしまうと、人間の負担が増えます。これらの理由で動物を

捨ててしまう人がいると聞きました。それにくわえて、経済的負担もあります。動物は生きています。餌代ばかりでなく生活用品、ワクチン代など、人と同じようにいろいろな費用が掛かります。特に医療費用は、病気がケガによって思わぬ高額になる場合もあります。家族の誕生日プレゼントで動物を迎え入れた人もこういった理由で捨ててしまいます。このような時間とお金の問題だけではなく、後先考えず、動物を飼ってしまうという問題もあります。多くの人がペットショップで子供の動物を買います。ですが、ペットショップで買った動物が一番捨てられているのです。中でも多いのが大人になると大きくなってしまふ動物です。子供の頃は小さくてかわいかったのに、大人になるとかわいよりたくましくなってしまうと思う飼い主がいるのです。

殺処分はゼロにできるのではないかと思っている人もいます。ですが、現在の日本の殺処分数は、三万八千頭と殺処分ゼロとはかけ離れた数です。一日に換算すると百五頭ほどの動物が殺処分となっているということになります。では、日本が殺処分ゼロの国になるためにはどうしたら良いのでしょうか。日本がまったくこういった問題に取り組んでいないというわけではありません。実は、日本では三つのことを行っています。一つ目は、飼い主と国民の意識向上です。動物愛護フェスティバルなどのイベントを通し、意識を向上させています。二つ目は、引き取り数の削減です。猫や

犬などの動物が飼い主に捨てられた後、勝手に繁殖してしまい、保健所などに引き取られるということがあるので、不妊去勢措置の徹底や猫の室内飼育などを推奨しています。三つ目は、返還と適正譲渡の推進です。引き取った動物の所有者へ動物が安心して暮らすことができるかなど、適正な人を選ぶということを行っています。これら大きく三つの取り組みを行っています。まだ殺処分ゼロになっていません。

日本では殺処分ゼロを実現できていませんが、実現できている国があります。実はドイツなのです。正確に言うところ、ドイツは、殺処分ほぼゼロを実現している国と言われています。殺処分はせず、里親が見つかるまで探し続けます。中には里親を探し続け十九年間保護されている動物もいるそうです。ドイツにはペットショップがほとんどなく、ペットを飼い始めようと思ったら、まず保護されている動物を探すからです。仮にペットショップに行っても、店員から、まずは保護されている動物を探してみるように勧められることもあるそうです。このようにドイツは、保護されている動物にとって良い環境を作っています。

私は、今の日本の捨てられた動物たちの状況を大幅に変えることはできませんが、これからの未来、日本の人々に捨てられた動物たちの状況を知ってもらい、動物たちの命を大切にしてみたいように、この状況を広めていきたいです。

「変わり者」



下稲吉中学校3年
宮本 果歩

昔からよく「変わり者」と言われてきました。時には「おかしい」、「ありえない」と強い言葉でののしられたこともありました。そう言われる度に私は「変わり者が心地よく過ごすには何を大切にするべきか」と考えてきました。

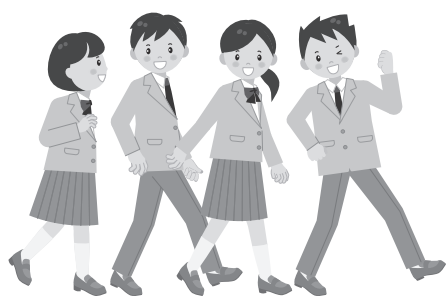
きっと多くの人にとって「変わり者」とは、世の中の様々な出来事に関する付き合い方や考え方が少数派の人であるかと思っています。しかし、そういう人が「変わり者」ならきつと世の中のとんとどの人「変わり者」なんだと私は思います。「猫が好きか、犬が好きか」と問われた場面、きつと多くの人が一度は少数派に入ったことがあるのではないかと私は思います。そういう人達はみんな、私と変わらず「変わり者」なのでしょう。考えてみればそんなことあたりまえです。人は一人一人絶対理解されない「変わり者」のかげらを持つているからこそ、喧嘩や反抗をするのです。だからこそ私達は個人として成立しているのだと私は思い、信じています。

しかし、それでも世の中には「変わり者」と言われ、時には悪意を向けられる「変わり者」と、あまり「変わり者」と言われない「変わり者」がいます。どういう区別をすればこれらが生まれるのでしょうか。

多分人々がどういった面から人を見るかで「変わり者」と言われる人とそうではない人が分かれてくるのだと思います。例えば一方の面から見るとごく「変わり者」なのに、もう一方の面から見るとそうではない人があると思います。その人は例にもれず「変わり者」ですが、周りの人が一方の面から見るその人に気づかずもう一方の面から見るその人しか知らなければその人は「変わり者」とは言われません。周りの人がどういった面から自分を見るか、自分がどういった面を周りに見せるかが「変わり者」と言われるか言われないかを分けるのだと思います。

ある日、とある少女漫画を読んでいると登場してくる女の子が「変わり者」の女の子をいじめているシーンがありました。それを見た私は、何だか自分と重ねてしまつてすごく苦しい気持ちになりました。まるで「変わり者」の存在が否定されているようなそのシーンに私は同時に疑問を覚えました。少数派の「変わり者」はどうして時にこういう扱いを受けるのか私は考えました。考えて考えてようやく納得がいく自分の考えを出すことができました。

「変わり者」が時に厳しい扱いを受けるのは、きつと厳しい扱いをする人が大衆の価値観や考えだけを見て、信

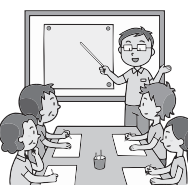


じているからだと思っています。多数派の意見を絶対だと思い、少数派の意見をどこかで間違っていると思い、自分の意見を考えようとしないうえに、この現代社会に少なからずいるのではないかと私は思います。とはいえそう思ってしまうのも理解できるし、そういう人達が悪いわけではないと私は思います。しかし、全ての人が気持ち良く過ごせる世界をつくっていくためには多数派が正しいという固定観念を少しずつ変えていくことが大切なのではないでしょうか。

私達はみんな「変わり者」で一人一人が絶対に理解できない考えを持っているものです。しかし、もし誰かのその「変わり者」のかけらを見つけても、それを否定せず、どんなに理解できないと思ってもその「変わり者」は確かにこの世界に存在しているということを受け入れ、肯定していくことがこれからの現代社会を生きていく上で一人一人が大切にするべきことなのではないかと私は思います。

かすみがうら市

青少年相談員 連絡協議会



青少年をとりまく社会環境を健全化し、青少年の健全育成と非行防止に資することを目的として様々な活動を行っています。

①巡回活動 徒歩や青色防犯パトロール車で、毎月2回程度、市内の施設や店舗を中心に神立駅周辺や公園なども巡回しています。

②店舗への訪問活動 コンビニエンスストアなどの商業施設を訪問し、「青少年健全育成に協力する店」として良好な環境づくりへの協力をお願いしました。なお、市内では現在35店舗にご協力いただいております。

③研修会 青少年相談員としての更なる資質の向上を目指して、今年度は令和3年11月27日（土）にあじさい館にて研修会を実施しました。第1部では土浦警察署の木村光義署長に青少年関連のご講話をいただき、第2部では参加者が4つのグループに分かれ各自テーマを設定して話し合いを行いました。

④県青少年相談員連絡協議会第5ブロック研修会 青少年の健全育成及び相談員の資質の向上のため、また、土浦市・石岡市・つくば市・かすみがうら市の青少年相談員相互の連携を深め、広域的な青少年問題に対応できる体制づくりのため、毎年研修会が実施されています。令和4年1月29日（土）に土浦市にて実施される予定でしたが、参集は中止し研修資料配付に変更になりました。

令和3年度も様々な活動が中止になってしまいました。実施予定でしたが中止になってしまった活動についてご紹介します。

○あいさつ・声かけ運動 生徒が登校する時間にあわせ、市内3中学校であいさつと声かけを実施しています。

○啓発活動 神立駅での非行防止キャンペーンや市内のイベントにて、多くの方に青少年健全育成への理解を語りかける活動をしています。



研修会 第2部



研修会 第1部



店舗への訪問活動

青少年心身 健全育成事業 ジュニア和太鼓教室

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で教室の延期が続き、10月にやっと練習を開始することが出来ました。あゆみ太鼓の方々の指導のもと、バチの持ち方や構え方などの基本的な練習から始め、毎週練習を重ねました。発表では、6回の教室で学んだ「族」という曲（佐渡の鼓童より）を保護者の皆さんの前で堂々とした姿で披露することができました。また、今年は『ふれあい生涯学習フェア2021』の収録にも参加し、インターネットを介し多くの人々に子供達の素晴らしい演奏を見ていただくことが出来ました。



ジュニア和太鼓教室の練習風景

高校生会の活動



ふれあい生涯学習フェアの様子

今年度の高校生会は25名で活動しています。定例会だけでなく、学習支援ボランティアやかすみがうら子ども大学の手伝い、あじさい館のクリスマスツリー装飾、

ふれあい生涯学習フェア、市子ども会行事でのレクリエーション等、様々なイベントに参加し、積極的に活動してきました。

「できることを、できる時に、できる人が!」をモットーに楽しく元気に取り組んでいます。会員は随時募集中です。お気軽に参加してみてください。

興味がある方は、生涯学習課までお問い合わせください。



市子ども会 育成連合会事業

令和3年12月4日（土）千代田講堂にて、かすみっ子まつりを開催しました。市内の小学生が集い、クリスマス万華鏡の制作や大学生サークルによるジャグリングとバルーンアートショー、高校生会によるレクリエーションを行いました。

実際に大学生に習ってお皿を回したり、バルーンアートを体験したり、久々のイベントは賑やかでもいざだくさんの内容となりました。万華鏡とバルーン、サンタさんからもらったプレゼントを両手に抱えて、子どもたちからは笑顔があふれていました。



かすみっ子まつり

成人式典事業

令和4年1月9日（日）千代田講堂にて、令和4年かすみがうら市成人式が行われました。新型コロナウイルス感染症対策のため、午後の2部制開催とし、感染症対策を講じて実施しました。コロナ禍で制約も多くのなか、287名の新成人が出席し、懐かしい友との再会を喜び、新たな人生の一步を踏み出しました。

成人式典事業には青少年育成かすみがうら市民会議も協賛し、新成人に記念品を贈りました。



青少年育成かすみがうら市民会議

事務局 かすみがうら市教育委員会事務局生涯学習課
〒300-0134 茨城県かすみがうら市深谷3719-1
TEL.029-897-0564 FAX.029-898-2965

発行日：令和4年3月16日